



平成26年6月末、京都大学は第2期中期目標期間の4年目となる平成25事業年度の財務諸表等を文部科学大臣に提出しました。そして、私が総長として在任中最後となる「財務報告書 Financial Report2014」を取りまとめました。

本学は創立以来、自由の学風のもと闊達な対話を重視しつつ、京都の地において自主自立の精神を涵養し、高等教育と先端的学術研究を推進して、117年が過ぎました。

この間、社会・経済のグローバル化が急速に進み、今後さらに国際競争が激化していくことが予想される中、本学が世界に卓越した知の創造を行う大学として一層発展し、真のトップレベル大学としての地位を確立することを目指しています。

平成25年度には、地球規模の課題に取り組むための複眼的な視点を養う教養・共通教育を実施する「国際高等教育院」を設置しました。また、幅広い知識と深い専門性、柔軟な思考力と実行力を備えたグローバル人材を育成するための「大学院総合生存学館(思修館)」を設置したほか、若手研究者の海外派遣プログラムの拡充・整備など国際化に対応した大学改革に取り組みました。

一方、京都大学の国際化の指標となる数値を2020年までに2倍にし、明確な数値に裏付けられた「真の国際化」を実現するため、国際戦略「2x by 2020」を策定しました。

この「財務報告書 Financial Report 2014」は、京都大学が取り組んでいる事業を財務の側面から取りまとめたものですが、本学を支えてくださるみなさまにとりまして、より身近でわかりやすい報告書となるよう心がけました。本報告書によって本学の活動状況をご理解いただき、みなさま方からのますますのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総長 松本 紘

我が国の財政状況は、東日本大震災からの復旧・復興や高齢化に伴う社会保障費の増大などの諸問題を抱え、ますます深刻さを増しています。

一方、「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」や「国立大学改革プラン」等においては、グローバル化による世界トップレベルの教育の実現、産学連携、イノベーション人材育成、若手・外国人研究者の活用拡大など、大学の強み・特色を最大限に生かした大学改革が求められており、本学においても、着実に改革を推進しているところです。

このような中、京都大学が目的とする伝統を基礎とし革新と創造の「魅力・活力・実力ある大学」を目指して、多元的な課題解決に果敢に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するためには、財政基盤を安定させ教育・研究・医療の質の向上を図る必要があることから、自己収入の増加を図り、基盤的経費の確保に努めています。

また、教育研究活動のさらなる活性化や発展に向けて、概算要求により特別経費の獲得を図るほか、各種の競争的資金の獲得に向けた促進・支援活動の強化を図り、多くのプログラム資金を獲得しています。これらによって様々な教育改革や研究推進事業に取り組むとともに、若手研究者や女性研究者、大学院学生に対する財政的支援を行い、キャリアアップなどの支援を積極的に行っています。

これらのほか、平成25事業年度においては、国の財政状況に左右されず、長期的な展望を持って大学の運営が行えるような財務体質の強化、改善を目指し、従来の予算配分の在り方を抜本的に見直すことによって、これまで以上に効果的かつ効率的な資金配分を行いました。

今回お届けします「財務報告書 Financial Report2014」は、京都大学における様々な財務活動を中心に、最新の活動状況を紹介していますので、本学へのご理解とご支援の参考としてご覧いただき、忌憚のないご意見を幅広くお寄せいただけますことを切にお願いいたします。



副学長・理事（財務・施設・環境安全保健担当）

西阪 昇